

◆生育状況について

JA管内	ナガノパープル			シャインマスカット		
	発芽	開花	満開	発芽	開花	満開
平年	4/24	6/1	6/8	4/26	6/7	6/11
令和8年						
令和7年	4/20	6/4	6/8	4/22	6/6	6/11
令和6年	4/17	5/25	6/2	4/20	6/1	6/5

◆当面する重点作業・技術

1. 強風等で枝が反転した園地は、早急に誘引配枝のやり直しを行う。
2. 凍害及びクラウンゴールの被害を受けている可能性があるため、粗皮はぎ時に主幹に裂傷などが無いか確認する。また、発芽以降自園の状況をよく観察する。
3. 芽かき作業を行い、新梢の勢力伸長を揃える。
4. カスマカメムシはヨモギで増えるので、毎年被害の多い園では草刈を行う。
近隣の耕作放棄地でも発生するため、地域ぐるみで対策を行う。
5. 薬剤散布を適期に実施する。

◆第3回薬剤散布について

1. 散布時期：展葉数で2～3枚期 葉が10円玉サイズになった頃

実際散布月日	月	日
--------	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：2500ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10mℓ	—	—
アプロードフロアブル	1,000倍	100mℓ	30日	クワコナカイガラムシ
キノンドー顆粒水和剤	1,000倍	100g	45日	黒とう病

3. 散布上の留意事項
 - 1) シャインマスカットやクイーんルージュ®・欧州系など、黒とう病に弱い品種は重要な防除となるため、必ず散布を行う。（苗木も必ず散布する）
 - 2) クワコナカイガラムシ対策となるため、主幹・主枝、特に芽座にしっかりと散布する。
 - 3) キノンドー顆粒水和剤に代えて、ICボルドー66D50倍（水100ℓ当り2kg）又はトレノックスフロアブル1,000倍（水100ℓ当り100mℓ）を使用してもよい。なお、ICボルドー66Dとアプロードフロアブルを使用する場合は、凝集するため先にアプロードフロアブルを溶かす。

◆カイガラムシ対策薬剤散布について

1. 散布時期：4月末頃～5月初旬

実際散布月日	月	日
--------	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1樹当り水40mℓ

農薬名	—	調合量	収穫前	病害虫
アルバリン顆粒水溶剤	—	40g	幼果期 30日	クワコナカイガラムシ

3. 使用上の留意事項
 - 1) 降雨により、薬剤が流れ落ちてしまうため、塗布してから2日位は天気が良い時に実施する。
 - 2) 1樹当り水40mℓに薬剤40gをよく溶かし主幹部を縦50cm以上、環状に粗皮削りし、当日～翌

日にハケで塗布する。

- 3) 塗布後48時間は降雨にあわないよう配慮する。
- 4) 使用回数が年1回となっているので、クビアカスカシバの防除（6月上旬に樹幹塗布）とどちらかでの使用となる。

4. 実施方法

- 1) 必ず当日または前日に粗皮を取り除く。（時間が経つと浸透しにくい）粗皮は出来るだけ取り除いた方が薬液が浸透する。ただし、削りすぎて樹液が出てくると薬液が落ちてしまうので注意。
- 2) ハケを使用して、溶かした薬液を押しつけるように、1樹当りの薬剤をしっかりと塗る。
- 3) 使用回数は年1回の為、塗り直しは出来ない。乾いてから塗りなおしても効果は少ない。



◆不発芽・発芽遅れなど発芽不揃いについて

発芽が悪い原因を確認して対応する。不明な点は、果樹技術員までご相談下さい。

[考えられる要因と対応]

1. 水不足で生育が遅れている ⇒ かん水を行う
2. ねむり病（凍害・寒害）
低温による被害だが、徒長・遅伸びして充実の悪い樹や前年までの葉の痛みや着果負荷（量・期間）による貯蔵養分の減少の影響も大きい。
凍害による傷から根頭がんしゅ病（クラウンゴール）が発生しやすい。
⇒ 治療方法は無いため、改植をする。
3. 傷害
草刈り機が接触して傷になった・幼木時ひねった・主幹に大きな切り口があるなど、水分の流れを悪くする原因がある。
⇒ 様子を見て、樹勢が維持できない等の場合は、改植をする。
4. 虫害：スカシバ類等による食害
⇒ 主枝への被害がある場合は、更新枝の育成を行う。
程度が軽い場合は「ロビンフット」を使用する。

5. モンパ病

⇒根の部分を掘り起こして白くカビで覆われているかどうか確認する。

ならたけ病（きのこ臭がある）と類似しやすい。

⇒改植する場合は、モンパ菌のエサになる根が残らないように取り除く。炭や完熟たい肥の投入も有効。掘った穴はしばらく空気にあてる。すぐに改植すると再発しやすい。フロンサイドS C 500 倍の 50ℓ を灌注してもよい。

6. 除草剤

切り口や表面に出た根などに薬剤が飛散していないか。定期防除後、同じタンクやホース等で除草剤を使用していないか確認する。

⇒ 様子を見て、樹勢が維持できない等の場合は、改植をする。

◆種なしぶどう栽培講習会（芽かき等）開催について

下記日程により、開催いたします。

※カイガラムシ対策防除を★印のついている圃場で実演する予定です。

開催日	曜	集合時間	開催場所	担当
4月27日	月	午前 9:30	篠ノ井 石川 南澤ひろ江様園	徳武・伊藤
		午前10:00	東部 中村 奨様園 駐車はセンターの南側に整然とお願いします。	外谷
		午後 1:30	篠ノ井 作見 斎藤義夫様園 ※場所がわからない方は、15分前に西部流通センター事務所前にお集まりください。	徳武
4月28日	火	午前 9:30	松代 五明公子様園	伊藤
			若穂 綿内 安藤周三様園	寺澤
		午前11:00	若穂★綿内 昨年と同じ会場 宮沢様園	寺澤
			川中島 今井 千野しげ子様園	松橋
		午後 1:30	松代 東条 中村忠勝様園	伊藤
			若穂★保科 伊藤哲也様園 保科薬調上	寺澤
	更北 真島 小林芳春様園	根津		

◆芽かき作業について

発芽や樹勢に応じて行い、新梢の勢力伸長を揃える。

[種あり巨峰]

第1回目

1. 展葉初期に不定芽と種枝基部の2芽をかき取る。
2. 樹勢の弱い樹は早目から行う。

第2回目

1. 副芽や極端に強い新梢をかき取り、棚の明るさとバランスを保持する。
2. 負け枝を作りやすい部位（主枝分岐部・側枝種枝の基部）は早めに処理する。
3. 5～6枚期以前に強い新梢を除去することにより、基部に近いところまで新梢を揃えることができる。
4. 花振り回避のため、開花前の芽かきは極力弱めとする。（強樹勢）
⇒但し、開花中に棚が暗くなっても困る。
5. 樹勢が強く芽数が多く残っている場合、不要な結果母枝を棚下へ下げて棚の明るさを確保する。

[種なしぶどう]（短梢剪定）

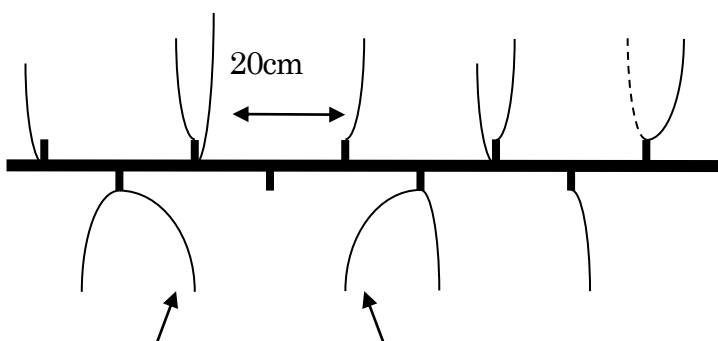
短梢部分と長梢部分（主枝延長枝）は、芽かきの方針が異なるので注意

1. 主枝延長枝の芽かき
 - 1) 副芽は早めにかき取る（短梢部分も）
 - 2) 長梢部分から発生した副芽は新梢誘引時にハサミで切る。※手で欠き取らないように！



副芽が大きく伸長している場合は、基部をハサミで切る。
手で欠き取ると、残った本芽にまで傷が及び、誘引時に折れやすくなる。

2. 短梢部分の誘引と芽かき（芽かきは誘引後に行っても良い）
 - 1) 2芽剪定をした人は展葉2枚までに先端側の芽をかく。
 - 2) 30cm程伸び（展葉4～5枚頃）、花穂の素質がわかり次第、必要に応じて芽かきをする。
短梢部分は新梢が伸びやすいので、あせって芽かきをしなくても良い。
 - 3) 原則として、芽座の基部側の新梢を残し、1芽座に1新梢とする。



欠損部は、原則として隣や反対側の新梢を利用して埋める。

図2 欠損部の補充方法

上芽は誘引しづらい

残す 残す

下芽は誘引で折れやすい

図1 残す芽の位置

最終的に片側20cmに1本程度新梢が欲しい。

特にナガノパープルは、誘引時に折れやすいので、芽かき時に目標本数より多く残しておく。

- 4) 基部側の新梢の伸びが悪い時や、判断時期が遅れた時は、やむを得ないので先端側の強い新梢を残す（短梢せん定の維持が困難になりやすいが、生産量を優先させる）。
- 5) 新梢は、目標本数の2割多く残す。（最終目標本数：片側20cmに1本）
特に、誘引時に折れそうな位置にある新梢の付近には多めに残す。
- 6) 欠損部がある場合は、2芽残す。反対側の新梢の状況も確認しながら誘引準備を行う。